

在宅医療・救急医療連携推進パイロット事業（令和2年度新規）

1 目的

高齢化の進展に伴い今後も増え続ける救急搬送需要に対応するため、「にいがたQQ連携シート」を作成し、救急時に本人、家族、救急隊、医療ケアチームと共有・活用することで、円滑な救急搬送につなげる。あわせて、普段から治療やケア、過ごし方に関する希望を家族などと共有しておくことの大切さについて、理解と実践を促し、本人の意思が尊重されやすい医療提供体制の強化につなげる。

2 事業

(1) 「にいがたQQ連携シート」の作成・運用

既往歴、持病、服薬状況などの医療情報、かかりつけ医や緊急連絡先情報のほか、今後の治療やケアに関する本人の希望、家族等の意向を含めた情報を記載するシートを作成し、救急時に関係者間で共有・活用する。

令和2年度は西区で検証

■対象者

西区に住所を有する要支援・要介護認定者のうち、施設利用者（※） **約2,000人**

※①特別養護老人ホーム ②介護老人保健施設 ③ショートステイ（①②併設型）

(2) 救急医療についてのセミナー・研修会の開催

ア 「市民向けワークショップ」

市民へもしものときに受けたい医療や受けたくない医療、正しい医療のかかり方、#7119などのサービスについて理解や関心を深める。

イ 「支援者育成（意思決定支援等）研修会」

生活相談員や介護支援専門員、医療ソーシャルワーカーなど支援者を対象とした研修会を開催し、「にいがたQQ連携シート」の趣旨や取扱いについて理解を深めるほか、ACP（「人生会議」）の基本理解を得てもらう。

■対象者

西区管内の居宅介護支援事業所、高齢者施設（特養・老健・短期入所等）の従事者

(3) 在宅医療・救急医療連携ワーキンググループの開催

在宅医療と救急医療の関係者間で個人の医療に関する情報や医療・ケアに関する希望などの意思を共有するための連携ルールについて検討する。

ワーキング構成員：医療・介護関係者、弁護士、消防局（H31.4月設置）

3 スケジュール（R2～R5年度）

年度	実施内容	対象エリア
		対象者
		対象者数
R2 ・ R3	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の救急搬送に関する課題抽出、現状把握（ヒアリング・アンケート・意見交換会の開催） ・先進事例、既存関連ツール等の把握 ・シートの検討（仕様・運用方法等） ・支援者意思決定支援育成研修会の開催 ・市民ワークショップの開催 ・シートの運用開始【R3.4月～】 ・事業評価アンケート（中間評価） 	西 区
		高齢者施設（※）入所者 ※①特養②老健③短期入所生活介護 （①②の併設型）
		約 2,000 人
R4	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者、エリア拡大 ・事業評価アンケート（最終評価） 	西区・中央区
		要支援要介護認定者
		約 18,000 人
R5	<ul style="list-style-type: none"> ・全市展開 	全 市
		要支援要介護認定者
		約 43,000 人

※対象者数はR元.5月現在

※R4年度までモデル期間と想定

※要支援要介護認定者以外の対象者も要検討（独居高齢者等）